

ぶらりわが街宮沢界限

(30) 戦後のまちづくり—復興から今 —IV—

○ 陸軍多摩飛行場→横田基地→騒音(そうおん)→集団移住・防音

戦後の復興が順調に発展を遂げてきた市域でしたが、立川基地や横田基地の飛行機の発着による騒音は、市民の悩みの種でした。現在も横田基地が周辺住民に騒音被害を与えている。

陸軍多摩飛行場は昭和15年(1940)、陸軍立川飛行場の付属施設として建設され、戦中は新鋭戦闘機を筆頭(ひつとう)とする兵器の審査を行う陸軍航空審査部が置かれた。敗戦後の20年(1945)9月4日、アメリカ軍に接收された。この地域が北多摩郡村山町(現武蔵村山市)大字(おおあざ)名から横田飛行場と名づけられ=横田基地と呼ばれるようになりました。

接收後に基地拡張工事が行われ、拡張に際して北側で国鉄(現JR)八高線・2級国道129号線(現国道16号線=東京環状線)の経路が変更され、南側で五日市街道が分断された。35年(1960)頃にはおおむね現在の規模となった。総面積7.136Km²(南北約4.5Km、東西約2.9Km、周囲約14Km)滑走路3,350m×幅員60m1本。福生市・瑞穂町・武蔵村山市・羽村市・立川市・昭島市(*構成面積順)にまたがる。沖縄以外の日本では最大のアメリカ空軍基地であり、事実上、日本の行政権の及ばない治外(ちがい)法権地区であり、民有地がなく、そのほとんどが国有地で占められている。昭島市の提供面積0.021Km²。基地面積割合0.3%・自治体面積割合0.1%です。

・ 国道16号線整備・拝島橋架橋(かきょう)一八王子市と昭島市を結ぶ国道16号線=別称「東京環状線」(旧2級国道129号線・40年(1965)16号線に改称)は、多摩川で分断されていて、八王子に行くには渡し船か、立川を回って日野橋(大正15年(1926)開通)へ行くしかなく、架橋工事は昭和14年(1939)4ヵ年計画で開始したが戦争の激化により中断。米軍の進駐で16号線は横田基地と厚木基地を結ぶ行政協定道路となり整備で、25年(1950)から工事再開されて、5ヵ年の歳月と総工費十億四千万円を投じ、30年(1955)3月開通。鉄筋コンクリート製橋長529.6m(日野橋より約100m長い)幅員8m。現在は、平成4年(1992)4月新橋開通—4車線。拝島橋の両側に「拝島の渡し」の渡船をデザインにしたモニュメントが平成21年(2009)に飾られています。

・ 騒音被害による集団移転・防音—基地問題は、進駐直後から発生し、特に朝鮮戦争当時はB-29爆撃機の出撃基地として機能し、ベトナム戦争時も補給拠点として積極活用されていた基地であり、現在も年間離着陸2万回で空母艦載機の離着陸訓練や日常的に行われる飛行やエンジンテストなどにより、周辺住民に多大な騒音被害を与えています。市域では、滑走路中心線延長下であるかって昭和飛行機社宅・宿舍一帯の堀向住宅群の昭和社宅・第一・三都営など騒音被害のため43年(1968)~49年(1974)に大半が集団移住。43年2月大神・宮沢町の「東の岡団地」に106所帯が移住しました。また、市内の学校は防音設備が施されるようになった。現在、在日米司令部・第5空軍司令部が置かれ、基地内に軍人・軍属約4,300人、家族約4,500人、日本人従業員約2,200人。平成24年(2012)3月航空自衛隊航空総司令部が移転再編し常駐。

記

防犯宮沢支部 西山 禎一



(写真左)横田基地第2ゲート(写真中)横田基地日米友好際2014:初展示となった「MV-22オスプレイ」宮沢上空を着陸のため飛来。(写真右)拝島橋のモニュメント